

宮城県の園芸作物における IPM 研究と普及の実際

宮田 将秀 氏

(宮城県農業・園芸総合研究所)

日時：2009年12月18日(金) 18:00頃～

会場：明治大学生田キャンパス 中央校舎 0411教室

東北の『米どころ』として知られる宮城県ですが、実は、冷涼な気候を活かした園芸作物の栽培も盛んに行われています。特に、四季成りイチゴや夏秋栽培イチゴは、夏場のケーキ用として利用される輸入品に代わる希少な国産品として、首都圏の高級菓子店を中心に需要が高まっています。しかし、夏場のイチゴ生産では害虫の被害が大きくなり、生産振興の課題となっています。

宮田将秀氏は、野菜や花卉、果樹などの非常に幅広い作物を対象として、生産現場における害虫防除技術開発の最前線で活躍している研究者です。特に、四季成りイチゴや夏秋栽培イチゴで問題となっているハダニ類を対象として、天敵であるカブリダニ類を基幹とした総合的害虫管理 (IPM) の構築と普及に尽力し、現在では産地の栽培体系が大きく発展しています。また、安全性の高い気門封鎖性殺虫剤や害虫の侵入を防ぐ被覆資材の効果を評価して防除体系に組み込むことで、殺虫剤の使用を抑えた害虫防除の新たな展開を先導しています。

今回は、宮田氏が取り組む一連の研究について紹介して頂きます。糸山の出張の影響で遅い時間の開催になってしまいましたが、生産現場の状況を知る良い機会でもありますので、是非お集まり下さい。宜しくお願いします。

問い合わせ：

農学部 応用昆虫学研究室 糸山享

(5号館 208、内線 7810)